政治分析13 国際政治経済学

絶対優位と比較優位、何れにせよ自分が最も効率よく生産できる物品に特化して国際的に分担をすることが総余剰を最大にする。

TPPと国益

* 安倍首相は、衆参両院農林水産委員会がコメなど重要５分野の保護を求めた決議に触れて「決議をしっかりと受け止め、国益を守るための交渉を続ける決意だ」とした。  
  多くの政治家は、自由貿易交渉において自国のいくつかの産業を聖域として守ろうとする。
* なぜか？
  + 損する人、得する人
    - 自由貿易のもたらす損得（ストルパー・サミュエルソン理論）
      * 豊富な生産要素、希少な生産要素
      * 労働者が希少で、資本が豊富な国と資本が希少で、労働者が豊富な国では、自由貿易は豊富な生産要素を持つ人を勝者にする
    - 産業構造変化・特化のコスト
      * 転職、引っ越し
      * 労働者も資本家も、輸入と競争する産業では大変？
  + 輸入競合産業と輸出産業
    - 産業セクターごとに勝者と敗者が別れる
    - 競争力のないセクターが敗者になる
      * リカルド・ヴァイナー・モデル
    - レントを守りたい産業
      * 鉄の三角同盟が結成される
    - 自由貿易と消費者の利益
    - ただ乗り問題と業界保護・少数の優位
    - 少数の優位の限界

2レベルゲーム （p.331）

自由貿易交渉を進める要因

* 囚人のジレンマ状況
  + お互い裏切って保護主義に
  + しかし、一回限りのゲームを考えるとこうなるが、繰り返し続くゲームを想定すると、裏切りが最善の手段とならず、囚人のジレンマが克服される。
* 覇権国家と自由貿易（p.279）
  + 覇権国家がいると自由貿易が成立する。
  + 世界のシステムを牛耳る国がただ乗りを防ぐ→ 本人代理人関係
  + 覇権国家がいるとその規模ゆえにただ乗りができない（しない）。そのため、ただ乗りを防ぐ自由貿易の浸透を徹底する。
* 国際制度
  + GATTやWTO
* 民主主義国
  + 中位投票者定理 – 各国の中位投票者は「**消費者**」である→ 自由貿易で利益を得る
  + 民主国同士、上記のことが共通理解。
  + 民主的手続きの必要は裏切りを困難に（国民の監視があるので嘘をつけない）
  + 信頼できる決定→公開性がある、交渉プロセスにおいてウィンセットを公開する

演習

1. ２レベルゲームとは何か

　対外政策の決定過程において、国内の政策が対外政策に影響を与えるので、国内政策が対外政策の決定に影響すると二段階で別れてみるゲームのモデル。国内→対外。

　貿易交渉において、貿易交渉を行う国々はそれぞれ関税率の組み合わせの理想点を持っているとし、理想点ではなくとも妥協できるような組み合わせの範囲（ウィンセット）を持っていると仮定する。この時、この国々が交渉をする際、両者の理想点に可能な限り近く、また、両者の妥協の範囲（ウィンセット）の重複部分内にある関税の組み合わせで両国は合意する。しかし、ウィンセットと理想点というのは一定ではなく、それぞれの国の国内情勢に影響されて変動する。そのため、先に各国の体内的政策により理想点とウィンセットが決定され、それを受けて貿易交渉における関税率の組み合わせが決定される。このように二段階を通じて関税率の組み合わせが決まるので、これを２レベルゲームという。

1. なぜ、覇権国家の存在によって、自由貿易が推進されうるのか

覇権国家は、圧倒的なパワーを有するため、（自由貿易を行う）各国家による保護主義への裏切りを抑えることができるから。

覇権国家の存在→各国家は裏切りするインセンティブを持たない。

また、覇権国家が、自由貿易による最大の受益者だから（市場に占めるシェアが最も高いので、社会の総余剰を最大化させたい→自由貿易）。

ポイントは、自由貿易から得られる利益と、世界全体で自由貿易するという利益が重なり合っているという点

覇権国家にとって、自国が保護主義に走ると、世界で自由貿易が成立し得なくなる。すると、自分も自由貿易から利益が得られなくなってしまう。故に、覇権国家→自由貿易にコミットするインセンティブ  
なお、覇権国のパワー↓→自由貿易が阻害

1. なぜ（自由貿易を行う国家が）民主主義国家だと、自由貿易が推進されうるのか
   1. 中位投票者定理 – 各国の中位投票者は「**消費者**」である→ 自由貿易で利益を得る
   2. 民主国同士、上記のことが共通理解。
   3. 民主的手続きの必要は裏切りを困難に（国民の監視があるので嘘をつけない）
   4. 信頼できる決定→公開性がある、交渉プロセスにおいてウィンセットを公開する